

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

文部科学省では、平成19年度から、小学6年と中学3年を対象に、「全国学力・学習状況調査」を実施しています。

今年度は、4月14日～17日に、小学6年生47人、中学3年生56人が参加し、国語、算数・数学、理科の調査が実施されました。

①教科に関する調査

	教科	中井町 (県平均との比較)
小学6年生	国語	同程度
	算数	同程度
	理科	同程度
中学3年生	国語	やや下回る
	数学	やや下回る
	理科	やや下回る

本調査により測定できる「学力」とは、特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。また、中井町では児童・生徒数、学校数が少なく、教員や児童・生徒の特定につながりかねないため、数値の公表は差し控えていただきます。

②各教科の状況

神奈川県全体と比較して

・〇は「正答率が高いもの」

・▲は「主に課題として挙げられるもの」

【小学校 国語】

〇図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

〇情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うこと

▲目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけること

【小学校 算数】

〇伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと

▲分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述すること

▲台形の意味や性質について理解すること

【小学校 理科】

〇知りたいことを確かめるための実験方法を正しく設定し、表現すること

〇顕微鏡を操作し、適切な像を得ること

▲身の回りの金属の性質について理解していること

▲乾電池のつなぎ方について理解していること

【中学校 国語】

〇資料や機材を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること

▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

▲具体と抽象など情報と情報との関係について理解していること

【中学校 数学】

〇多角形の外角について理解していること

▲相対度数の意味について理解していること

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること

【中学校 理科】

〇他者が発表する場面において、視点を決めて振り返りを表現すること

▲実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと

▲地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析し、解釈すること



③児童・生徒質問紙の結果から見る中井町の児童・生徒の特色

◆小学生

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的な回答をした児童が県や全国に比べて高い傾向にあります。学校での話し合い活動とおして、異なる意見や考えに触れ、自分の考えを広めたり深めたりすることの楽しさを感じていると言えます。学校の授業以外の学習時間(平日)については「1時間より少ない」「全くしない」と回答している割合が県や全国に比べて、多くなっています。

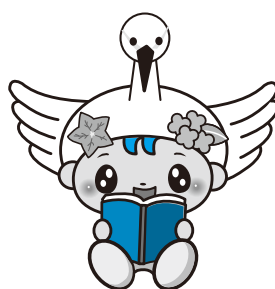
◆中学生

「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して肯定的な回答の割合が、県や全国に比べて高い傾向にありました。中学校生活をおして、将来の自分について考え、前向きなイメージをもつことができていると考えられます。分らないことがあったときに、自分で学ぶ方を考え工夫することについては、肯定的な回答が県や全国を下回る傾向にありました。

○道徳の授業への取組

小・中学校ともに「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問

に対して、肯定的な回答が高い傾向にありました。各校では、日頃より道徳の授業改善に努めています。町としても道徳教育研究会を開催し、講師を招いたり園・小・中学校の先生たちが協議したりして、道徳の授業づくりに取り組んできた成果であるとみられます。



○地域に根差した教育

「地域の大人に、授業や放課後などで、関わってもらったり遊んでもらったりすることがありますか」という質問に対して、小・中学校ともに肯定的な回答が高い傾向にありました。コミュニティ・スクールやスクールコーディネーターなどの活用が進み、地域の人材を生かした学びが進められていることの成果であると考えられ、今後も地域に根差した教育活動の推進を図ります。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

教育委員会では、文部科学省が提唱する「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「なかい授業づくりスタンダード」を基盤とする授業づくり研究を推進しています。令和6年度からは「子どもが学びや変容を自覚できる指導法」に焦点を当てた授業づくり研究を進めています。児童・生徒の学力向上につながる教員の授業力向上を図るために、教育委員会は小・中学校と一層連携し、教員研修の充実や各学校における実践研究の支援を積極的に行っていきます。

●なかい授業づくりスタンダード

何を学ぶか

①学習問題の提示

学び意欲を引き出す導入を考える。
(興味・関心 問題意識 必然性)

②学習課題・めあて

意欲を高め、考える対象を明確にする。

③見通し

学習のゴール、学習内容、学習プロセスを見通す。

④主体的・協働的な学び

自分なりの考えをもつ。
対話による協働での解決を目指す。
自分の考えを強化、修正する。

⑤まとめ

子どもとともに「まとめ」を創る。

⑥振り返り

学びを自覚し、理解を深め、つなぐ。

どのように学んだのか 何がわかり、できるようになったか

主体的・対話的で深い学びの実現